

2015年 2月 6日

幕別町議会議長 古川 稔 様



請願者 幕別町宝町160-1

阿部 かよ

紹介議員

小島 智恵

日本を愛する心を育む「中学校歴史教科書」の採択に関する請願書

昨年3月、中国政府は「南京大虐殺」や「従軍慰安婦」に関する資料をユネスコの記憶遺産に登録申請しました。その申請の可否は、戦後70年の節目の年である今年の夏頃に決定するとみられます。

識者の検証によって近年、「南京大虐殺」や「従軍慰安婦」は、ねつ造であったことが明らかになっています。昨年8月には朝日新聞が「従軍慰安婦」記事の内容が虚偽であり誤報を認め、9月11日謝罪したところです。「南京大虐殺」については、当時中国の指導者であった蒋介石は数百回もの演説や会見の中で一度も触れておらず、毛沢東も一度も言及したことはありません。南京戦の司令官だった松井石根大將は日中友好親善を進めた親中派として知られ、攻略後は市内の治安維持のため厳しい軍律を課しました。実際に残されている記録映像や画像を見ても、日本兵と中国人たちが笑顔を交わしているものが多く、大虐殺があったとは到底考えられません。実際、日本が南京占領した後には人口が5万人増えているという統計があり、国際委員会からは感謝の書簡が送られています。

東京裁判では戦勝国側の一方的な裁判が行われ、公平性とはかけ離れたものでした。国際法上の法的根拠はありません。裁判では南京大虐殺の犠牲者20万人とされていますが、日本軍が南京に入城した際に多くの住民は「安全区」に避難していたため虐殺は不可能です。アメリカは、広島、長崎への原爆投下により20万人以上の民間人を虐殺しましたが、その正当化のために日本悪玉論を作り上げ、流布する必要がありました。20万人という数字はここから導き出されたとも言われています。このように「南京大虐殺」はアメリカと中国の国益によるプロパガンダの作り話にしか過ぎないのです。

しかし誤報が世界中に広がり、日本人を貶めています。“虚構”の歴史が“事実”として現在の歴史教科書に書かれ、教育現場では未だに子供たちに教えられています。ねつ造された歴史観ではなく真実の歴史を教えることを望みます。そして「日本は悪い国」と印象づける歴史教科書では、子供たちが国際社会の中で日本人として誇りを持つことはできず、自信を喪失する自虐史観、悲観的な思考が刷り込まれてしまう懸念があります。正しい歴史観を学び、育てていかねばなりません。子供たちの将来のために下記について町(教育委員会)に対して決議推進することを強く求めます。

記

一、現在使用している東京書籍では、南京事件(南京大虐殺)について「女性や子どもなど多数の中国人を殺害した」「国際的に非難されたが、日本国民には知らされず戦後の東京裁判で明らかにされた。被害者の数はさまざまな調査や研究が行われているがいまだに確定していない」と書かれてある。平成27年の中学校歴史教科書採択にあたり、教育基本法、学習指導要領に則った「伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛する」ことのできる歴史認識に基づいた歴史教科書を採択すること。